清津川上流のカラマツ

関　省吾

2000年7月、清津川の赤湯上流域を調査する機会を得た。梅雨末期の水量の多い時期で、繰り返す徒歩に難渋（流された者1名）したが清津川本流の標高1290m地点まで踏査することができた。その際、カラマツの自生を確認したので簡単に報告する。

カラマツが多く自生するのは本流の標高1140mから1200mの間である。

標高1140m付近では谷もかなり狭まり、両岸は急斜面でその下部は洪水に削られ急な崖となっている。左岸の急崖の上には低木が密生し、その上部は落葉広葉樹（ブナ、ミズナラ、ダケカンバ）と針葉樹（ウラジロモミ、クロベ、コメツガ）の混交林へと続いている。

この樹林の中にカラマツの大木が点在し、かなりの個体数があるものと思われる。

左岸の河原より高度差約60m地点（標高1,200m）に生育するカラマツをようやく調査することが出来た（写真1、2）。

カラマツは急斜面のやや屋根状の所にあり、胸高直径112cm、周囲352cm、高さ約25mの巨木で根元より3mで枝分かれし、アズマシャクナゲ、ホツツジが着生している。周辺の植生は次のようである。

カラマツ周辺の植物

高木層　ミズナラ（52cm、43cm）、ミネカエデ、クロベ、ウラジロモミ（ツルアジサイ）

低木層　コメツガ、テツカエデ、ノリウツギ、ミズナラ、ホツツジ、ムシカリ、リョウブ

草本層　シノブカグマ、ヤマソテツ、シシガシラ、ナライシダ、オクノカンスゲ、コミネカエデ、ツタウルシ、コメツガ、アキノキリンソウ

さらに上流の西沢出会を過ぎた標高1200m付近の右岸には崩落地の上部に若いカラマツ（直径15～20cm）が小さな林をつくり、その上に続く針葉樹林内にもカラマツが点在している。（写真3）

また川原のやや高い所にはカラマツの実生が多く見られる（写真4）。

県内のカラマツ自生地として知られる白馬岳天狗の庭（2.050m）のものは、風衝地に局在し、樹形は低く、ねじ曲がったものが多い。コメツガ、クロベを混生するが、周辺にはハイマツ、ミヤマハイビャクシが生育する。これに対して清津川上流のカラマツは、生育高度は低く、各世代の個体があって生育もよく、樹林内に点在して分布も広いと思われる。同種で生育環境がかなり異なることは興味深い。

写真1　カラマツに着生するアズマシャクナゲホツツジ（左岸 標高1,200m）

写真2　カラマツの巨木と山人（左岸標高1,200m）

写真3　若いカラマツ林（右岸 標高1,200m）

写真4　カラマツ実生（標高1,200m）